様式第2号(第5条関係・全体評価)

環境配慮推進状況評価表(事業種類別)

部 局 名:下水道局事業種名:流域下水道事業

1 取組の概要

(各部局における埼玉県環境配慮方針(埼玉県環境保全率先実行計画)~公共事業関連~に基づく環境配慮の推進状況の概要を記述する。)

現在、流域下水道事業は関連市町からの流入下水量の増加に対応するため、 終末処理場、ポンプ場において、施設の増設を行っている。

また、施設の老朽化に伴う改築・更新を並行して行っている。

計画段階では、流域別下水道整備総合計画に基づき、東京湾の水質環境基準を達成するための事業計画を策定した。

設計・施工段階では、高温焼却炉等の環境に十分配慮した設計を心がけ、特に建設副産物の削減、リサイクルの推進に配慮した。

管理段階では、焼却炉の自燃運転等により温室効果ガス排出量の削減を図り、 また、下水道フェスタ等を開催し県民に対する下水道の普及啓発を行った。

2 主な成果

(特に成果を上げることのできた環境配慮の内容を事例を用いて記述する。)

各種イベントへのブース出展や下水道フェスタ等を開催したこと等により、 県民に対して下水道の普及啓発を行った。

下水道管理課及び各下水道事務所のホームページにより、下水道事業について 広く県民に情報提供を行った。

3 今後の方針

(環境配慮の充実に関する各部局の今後の考え方を記述する。)

公共下水道事業の整備と連携を図りながら、下水道整備推進に努める。 また、河川等の公共水域の水質保全に寄与し、東京湾の水質環境基準を達成する べく、東京オリンピックまでに段階的高度処理対応の水処理施設を整備する。

4 課 題

(環境配慮の充実のために解決が必要と考えられる課題があれば記述する。)

環境負荷の軽減につながる新たな下水道処理方法を検討する。

5 事業一覧

(様式第1号により個別評価を行った事業を列挙する。)

別表 - 2のとおり

別表 - 2

個別評価事業一覧

事業年度:平成28年度 部局名:下水道局

事業種名:流域下水道事業

番			該当	実施		4
号	事業名	配慮事項・段階	チェック数	チェック数	環境配慮実施率	総合評価
1	荒川左岸南部流域下水道事業	計画段階	10	10	100.0	5
2	荒川左岸南部流域下水道事業	設計・施工段階	17	16	94.1	5
3	荒川左岸南部流域下水道事業	管理段階	19	19	100.0	5
4	荒川左岸北部流域下水道事業	計画段階	12	11	91.7	5
5	荒川左岸北部流域下水道事業	設計・施工段階	18	16	88.9	4
6	荒川左岸北部流域下水道事業	管理段階	21	19	90.5	5
7	荒川右岸流域下水道事業	計画段階	10	0 10	100.0	5
8	荒川右岸流域下水道事業	設計・施工段階	16	16	100.0	5
9	荒川右岸流域下水道事業	管理段階	19	19	100.0	5
10	中川流域下水道事業	計画段階	12	12	100.0	5
11	中川流域下水道事業	設計・施工段階	19	19	100.0	5
12	中川流域下水道事業	管理段階	22	22	100.0	5
13	古利根川流域下水道事業	計画段階	11	10	90.9	5
14	古利根川流域下水道事業	設計・施工段階	17	16	94.1	5
15	古利根川流域下水道事業	管理段階	20	18	90.0	5
16	荒川上流流域下水道事業	計画段階	7	7	100.0	5
17	荒川上流流域下水道事業	設計・施工段階	13	13	100.0	5
18	荒川上流流域下水道事業	管理段階	15	15	100.0	5
19	市野川流域下水道事業	計画段階	8	7	87.5	4
20	市野川流域下水道事業	設計・施工段階	15	13	86.7	4
21	市野川流域下水道事業	管理段階	16	16	100.0	5
22	利根川右岸流域下水道事業	計画段階	8	8	100.0	5
23	利根川右岸流域下水道事業	設計・施工段階	14	13	92.9	5
24	利根川右岸流域下水道事業	管理段階	16	14	87.5	4
	合計		355	339		

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸南部下水道事務所

事業の種類 5 下水道の整備	事 業 名	荒川左岸南部流域下水道事業
事業の規模 約 20,052.0ha 約 1,746	510人 実施場所	川口市外 4 市
計画期間昭和41年度~平成32	年度 段 階	計画段階

事業の概要:

川口市、さいたま市、上尾市、蕨市及び戸田市の流域関連公共下水道で集めた汚水を荒川左岸南部 流域下水道の管渠に受け入れ、戸田市に位置する荒川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性 汚泥法・高度処理、将来:高度処理)して荒川に放流する事業である。

あわせて、荒川終末処理場(大宮)にて下水処理水を受入れ、高度処理後、さいたま新都心地区に 中水として供給する事業も行っている。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 荒川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設(高度処理)を計画した。
- ・ 東京湾の水質環境基準(項目:COD、T-N、T-P)を達成するために、水処理施設(高度 処理)を計画した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用を図るため、汚泥処理施設を計画した。
- ・ 処理場及び処理場周辺地域の環境対策と処理場敷地の有効利用を図るため、水処理施設の二重覆 蓋上部に緑のオープンスペースの整備を計画した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記 入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項に ついて、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 荒川左岸南部流域下水道事業

		慮	時	-	: ツ
基本方向 1	期	重供	容	ク 該	軍
環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	計・	管理段階	該当	施
	幡	施	醛		
		葮階			
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること	=			レ	レ
別 などによ り、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのない。	-				
事の記慮する。					
項					
	Ш				
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。				レ	レ
別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)					ļ
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装	÷			レ	レ
[項]等)					
	<u></u>				
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					1
個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 	<u>.</u>				ļ
別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
項	<u></u>				
基本的配慮事項4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 					1
個 工事に使用する型枠を転用する。 	<u>-</u>		<u> </u>		ļ
別 工事に再生砕石を使用する。 	<u>.</u>				ļ
事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。 	<u>. </u>			レ	レ
項	F				
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。 			<u> </u>	ļ 	ļ
建設発生土を公共工事間に流用する。 	_		<u> </u>	 	ļ
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。		ļ	<u> </u>	ļ 	ļ
省エネルギー型の設備を導入する。	_L	<u> </u>		レ	レ

資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、	環境					
負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。 						
日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体	廃棄					
物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した原	蓬棄物					
ができるだけリサイクルされるよう努める。		L				
汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。					レ	レ
基本的配慮事項 5						
下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努め	る。					
個 汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)						
別る水時に処理水を活用する。						
事 汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】					レ	レ
項						
		配	慮	時	チェ	:ツ
 基本方向 2		期			ク	
		計	設計	管理段	該当	実施
恵み豊かでうるおいのある環境の確保 		計劃段階	遊	葮階	7	שנו
		ביו		РН		
			葮階			
基本的配慮事項 1						
ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。						
個 処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を	整備				レ	レ
別する。						
事 処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。					レ	レ
項						
基本的配慮事項 2						
自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る	0					
個 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					レ	abla
別 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。				اء ــ ــ ــا		
1						
│事 │ さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育∜	状況を					
事 さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育が項 把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保						

		慮日	寺ラ	チェ	ック
基本方向 3	期	Т≜ДГ€	<u>~</u>	主	=
県民等の自主的取組の促進	量段階	1 1 1	三里元文階	警	実施
		段階			
基本的配慮事項 1		<u>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>			
水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取	組σ)推進		配慮	する
個 親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
別 環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。					
事					
項					
基本的配慮事項 2					
事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情	報を	月県:	等	に適	切に
提供するよう努める。					
個 パンフレットを作成する。					
別 広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					
事 インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨	<u> </u>				
項 情報システム等)					
下水道の日にあわせ情報を提供する。					
処理場、管渠等の現場見学会を実施する。					
	実	施率	Ę	们	合
	(b / a	a i	i†	計
	(%	·))	(a)	(b)
		100		10	10

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸南部下水道事務所

事業の種類 5 下水道の整備	事 業 名 荒川左岸南部流域下水道事業
事業の規模 約 20,052.0ha 約 1,746,510 人	実施場所 川口市外4市
計 画 期 間 昭和41年度~平成32年度	段 階 設計・施工段階

事業の概要:

川口市、さいたま市、上尾市、蕨市及び戸田市の流域関連公共下水道で集めた汚水を荒川左岸南部 流域下水道の管渠に受け入れ、戸田市に位置する荒川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性 汚泥法・高度処理、将来:高度処理)して荒川に放流する事業である。

あわせて、荒川終末処理場(大宮)にて下水処理水を受入れ、高度処理後、さいたま新都心地区に 中水として供給する事業も行っている。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 周辺住民が自由に利用できる施設として、処理場水処理施設の二重覆蓋上部に芝生広場、植栽、トイレ、駐車場等の施設を設置した約2.74haの(仮称)荒川水循環センター上部公園を戸田市と共に整備した。
- ・ 建設工事、場内整備工事で再生砕石や再生アスファルトを使用して実施した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 荒川左岸南部流域下水道

	+ → ↑ 1	配期	慮	時	チェ	ック
	本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基	本的配慮事項 1	<u> </u>	тн			
	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				レ	レ
別	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事	慮する。					
項						
基	本的配慮事項 2					
	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。	ı	1	1	1	
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。 	ļ				
別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)	ļ				
事	処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装				レ	レ
項	等)					
	本的配慮事項 3					
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。	1		ı		
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 	ļ 				
別	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。				レ	
事						
項						
	本的配慮事項 4					
	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 「	ı		1	. 1	
個	工事に使用する型枠を転用する。 	ļ			レ	レ
別	工事に再生砕石を使用する。 	ļ			レ	レ
事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。 	<u> </u>			レ	レ
項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染				レ	レ
	、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。	ļ				<u>.</u>
	建設発生土を公共工事間に流用する。 	<u> </u>			レ	レ
	アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	<u> </u>			レ	レ
	省エネルギー型の設備を導入する。 	L	LL	l	レ	レ

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境				レ	レ
負荷	の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。				<u>[</u>	
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄					
物が	発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物					
がで	きるだけリサイクルされるよう努める。				<u>[</u>	
;	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。					
基本的配	己慮事項 5					
下水道	5資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。					
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)					
別	曷水時に処理水を活用する。					
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【 再掲 】				レ	レ
項						
		配	慮	時	チェ	ック
 基本方	向 2	期				
		計圖	設計	管理	該当	実施
思め	豊かでうるおいのある環境の確保	計画段階	設計・施	段階		,,,
			丘野			
			階			
	己慮事項1					
	~一プ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。	1			. 1	
	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備す					
別る。					レ	レ
		ļ			レ	レ
事 :					レ レ	レレレ
事 /						
事 /						
事項基本的配						
事 項 基本的 自然的 個	已慮事項 2					
事 項 基本的 自然的 個	記慮事項2 的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。				ν ν	ν ν
事 項 基本的 自然的 個別 事	記慮事項 2 対要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。 さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				ν ν	ν ν
事 項 基本的 自然的 個別 事	記慮事項 2 対要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。				ν ν	ν ν

			慮日	诗	チェ	ック
基	本方向 3	期	≛ π1:	22	= /, □	
	県民等の自主的取組の促進	計劃段階	評	属	藝	寒施
		嶐	施	階		
			設計・施工段階			
基	本的配慮事項 1		<u>,</u>			
7	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組	且の	推進	Ēاڌ	配慮	する
固	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。					
事						
頃						
基	本的配慮事項 2					
Ī	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	仮を	県F	等	に適	切に
提伯	供するよう努める。					
個	パンフレットを作成する。				レ	レ
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨					
項	情報システム等)					
	 下水道の日にあわせ情報を提供する。					
		実	施率		合	合
		(k	o /	a	計	計
		(%))		(a)	(b)
		9	4.1%	ó	17	16

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸南部下水道事務所

事業の種類	5 下水道の整備	事 業 名	荒川左岸南部流域下水道事業
事業の規模	約 20,052.0ha 約 1,746,510 人	実施場所	川口市外4市
計画期間	昭和41年度~平成32年度	段 階	管理段階

事業の概要:

川口市、さいたま市、上尾市、蕨市及び戸田市の流域関連公共下水道で集めた汚水を荒川左岸南部 流域下水道の管渠に受け入れ、戸田市に位置する荒川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性 汚泥法・高度処理、将来:高度処理)して荒川に放流する事業である。

あわせて、荒川終末処理場(大宮)にて下水処理水を受入れ、高度処理後、さいたま新都心地区に 中水として供給する事業も行っている。

現在、流域下水道管渠や終末処理場の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事

- ケーキ乾燥機を利用することで汚泥焼却施設の廃熱を有効利用した。
- ・ 温室効果ガス排出量削減のため、焼却炉を高温焼却運転とし管理している。
- さいたま新都心区域にトイレ雑用水を供給した。
- ・ 下水道フェア及び親子下水道教室等を開催し、下水道事業に対する理解と普及啓発を実施した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入 する。

2.「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。 なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 荒川左岸南部流域下水道事業

				_		
		配期	慮	時	チェ	ック
基	本方向 1		章ひ	容	≣女,	¥
	環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基	—————————————————————————————————————					
	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること					
別	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事	慮する。					
項						
基	本的配慮事項 2					
	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。					
別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)					
事					レ	レ
項	等)					
基	本的配慮事項 3					
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。				レ	レ
別	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事						
項						
基						
	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個	工事に使用する型枠を転用する。					
別	工事に再生砕石を使用する。					
事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。	<u> </u>			レ	レ
項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染	 				
	、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。	<u></u>				
	建設発生土を公共工事間に流用する。	<u> </u>	<u> </u>			<u> </u>
	アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。					
	省エネルギー型の設備を導入する。	L <u>.</u>			レ	レ
		_				_

					,	, .
	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境				レ	レ
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。]		
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄				レ	レ
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物					
	ができるだけリサイクルされるよう努める。					
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。				レ	レ
基	本的配慮事項 5					
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。					
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)				ヘ	レ
別	渇水時に処理水を活用する。					
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】				レ	レ
項						
		配	慮	時	チェ	ック
基	本方向 2	期				
		計画	設計	管理	該当	美施
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計画段階	施	管理段階	·	
		. –	工段階	. –		
_			階			
基	本的配慮事項 1					
/	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個					レ	レ
	する。					
事					レ	V
項						
_	- W. 27 de ja 72 0					
	本的配慮事項2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。			<u> </u>		
個	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。				レ	レ
個別	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。				ν 	レ
個別事	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。 さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				ν	ν
個別事	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。				ν 	ν

	配	慮	時	チェ	ック
基本方向 3	期		00	**	
県民等の自主的取組の促進	計劃段階	設計・施	富建	藝	実施
来以 4 の 日 工 的 以 温 の 促 	耀	施	隧階		
		丁段階			
基本的配慮事項 1		PH			
水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取締	組の	推i	焦に]配慮	する
固 親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。				レ	レ
別 環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。				レ	レ
事					
頃					
基本的配慮事項 2					
事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	報を	·県E	民等	計に適	切に
提供するよう努める。		1			
固 パンフレットを作成する。 		<u> </u>		レ	レ
別 広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。	<u>.</u>	<u> </u>		レ	レ
事 インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨				レ	レ
^頃 情報システム等)		<u> </u>			
下水道の日にあわせ情報を提供する。		<u> </u>		レ	レ
処理場、管渠等の現場見学会を実施する。				レ	レ
	実	施率	3	合	合
	(k	o /	а	計	計
	(%))		(a)	(b)
	1	00.0	`	10	10

- . :1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	荒川左岸北部流域下水道
事業の規模	6,262ha 330,270人	実施場所	桶川市外 4 市
計画期間	昭和46年~平成32年度	段 階	計画段階

事業の概要:

熊谷市、行田市、鴻巣市、桶川市及び北本市の公共下水道で集めた下水を荒川左岸北部流域下水道の管渠に受け入れ、桶川市に位置する元荒川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・高度処理、将来:高度処理)して元荒川に放流する事業である。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 元荒川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設(高度処理)を計画した。
- ・ 東京湾の水質環境基準(項目:COD、T-N、T-P)を達成するために、水処理施設(高度 処理)を計画した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用を図るため、汚泥処理施設を計画した。
- ・ 周辺地域の環境改善を図り、かつ多目的に広く利用できる施設とするために、水処理施設の上部 に二重覆蓋の整備を計画した。
- ・ 処理場内に動植物の生息空間を計画した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 高度処理水の綾瀬川の浄化用水への利用は住民からの臭気等に対する苦情のため中止している。

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 荒川左岸北部流域下水道事業

	配期	慮	時	チェ	ック
基本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現		設計	管理	該当	実施
	計劃段階	施	管理段階	1	טוני
		長階			
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				✓	1
別などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事慮する。					
項					
보고 사진 문학자 ·	<u> </u>				
基本的配慮事項 2 適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
週切な河川流量の確保など、地域の水循環の保主に配慮する。 個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。				1	/
		 		✓	·
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装 項 等)				√	'
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
別処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。	Ĭ				
事					
項					
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個 工事に使用する型枠を転用する。	ļ				
別 工事に再生砕石を使用する。	ļ				
事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	<u> </u>	<u> </u>		✓	✓
項					
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。	ļ	 			ļ
建設発生土を公共工事間に流用する。	<u> </u>	<u> </u>			
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	<u> </u>	<u> </u>			ļ
省エネルギー型の設備を導入する。	<u> </u>	<u>[</u>]]	✓	√

資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環	境				
負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。					
日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃	棄				
物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄	物				
ができるだけリサイクルされるよう努める。					
汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。		1		✓	✓
基本的配慮事項 5					
下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める	0				
個 汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)					
別る水時に処理水を活用する。					
事 汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】				✓	✓
項					
	配	慮	時	チェ	ック
 基本方向 2	期				
- 恵み豊かでうるおいのある環境の確保	蕌	辭	盲	該当	美施
	計画段階	設計・施	管理段階	7	,,,
		段階			
基本的配慮事項 1					
ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。 					
┃個│ 処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整 ┃	備			✓	1
別 する。		ļ			
事 処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 _				✓	1
項					
基本的配慮事項 2					
自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。		ļ,		✓	✓
別 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。 		ļ,			
事 さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況 _	_			✓	✓
項 把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に	配				
慮する。					

		配期	慮	時	チェ	ック
基			≐几	~	主	*
	県民等の自主的取組の促進	計劃段階	設計・施工	量段	夦当	実施
		면	严 段階	면		
基:	—————————————————————————————————————	<u> </u>	PH			
7	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取約	組の	推注	進に	二配慮	する
0						
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。	[·				
事						
項						
基	本的配慮事項 2					
1	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	報を	県	民等	手に適	切に
提伯	供するよう努める。					
個	パンフレットを作成する。					
別	 広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。	ļ				
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨					
項	情報システム等)					
	下水道の日にあわせ情報を提供する。					
		実	拖率	<u> </u>	合	合
		(k) /	а	計	計
		(%))		(a)	(b)
			11 7	,	1.0	11

- : 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	荒川左岸北部流域下水道
事業の規模	6,262ha 330,270人	実施場所	桶川市外 4 市
計画期間	昭和46年~平成32年度	段 階	設計・施工段階

事業の概要:

熊谷市、行田市、鴻巣市、桶川市及び北本市の公共下水道で集めた下水を荒川左岸北部流域下水道の管渠に受け入れ、桶川市に位置する元荒川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・高度処理、将来:高度処理)して元荒川に放流する事業である。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 4

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 元荒川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設(高度処理)を施行した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効利用を図るため、汚泥処理施設の改築・修繕工事等を施工した。
- ・ 周辺地域の環境改善を図り、かつ多目的に広く利用できる施設とするために、水処理施設の上部 に二重覆蓋を施工し、芝、樹木による植栽環境も整備した。
- ・ 処理場内に動植物の生息空間を施工した。
- ・ 再生材料を使用し施工した。
- ・ 環境配慮型建設機械を使用して施工した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 高度処理水の綾瀬川の浄化用水への利用は住民からの臭気等に対する苦情のため中止している。

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 荒川左岸北部流域下水道事業

		配期	慮	時	チェ	ック
	本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基	本的配慮事項 1	•				
	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				✓	✓
	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
	慮する。					
項						
基	本的配慮事項 2					
	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。					
別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)	!			✓	
事	処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装	!			✓	1
項	等)					
基	本的配慮事項3					
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。		1 1			
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。	<u> </u>	 			
別	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。				✓	
事						
項						
	本的配慮事項 4					
	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 					
個	工事に使用する型枠を転用する。 	 	 		✓	✓
別	工事に再生砕石を使用する。 	 	 		✓	✓
事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。 	 	 		✓	✓
項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染				✓	✓
	、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。 	 	 			
	建設発生土を公共工事間に流用する。	 	 		√	√
	アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	 	 		√	V
	省エネルギー型の設備を導入する。 	J	<u> </u>		✓	<u>['</u>]

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境]		✓	✓
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。				
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄				
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物				
	ができるだけリサイクルされるよう努める。				
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。		 		
基	本的配慮事項 5				
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。				
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)				
別	渇水時に処理水を活用する。				
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】			✓	1
項					

				_		
		配	慮!	時	チェ	ック
基	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計	設計	算	該当	美 施
		計劃段階	施	管理段階	_	,,,
		PH	ПТ	rĦ		
			段階			
基	本的配慮事項 1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				✓	1
別	する。					
事			<u> </u>		√	1
項						
其	└────────────────────────────────────	<u> </u>				
	年15日12000年9月2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
		1	1 1			
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。	<u>.</u>	<u> </u>		✓	✓
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。					-
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	1
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

		慮日	诗	チェ	ック
基本方向 3	期	i≞πi:	-22	≐7.	
県民等の自主的取組の促進	計画段階	計:	闡	藝	実施
	髭	施	段		
	РН	""	۳		
		設計・施工段階			
基本的配慮事項 1	•				
水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取紙	且の	推進	١٤	配慮	する
國 親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
現 環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。			i		
					
頁					
基本的配慮事項 2					
事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	设を	県民	等	に適	切に
是供するよう努める。					
固 パンフレットを作成する。		<u> </u> -		✓	1
広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					<u> </u>
「インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨					
[情報システム等)					
下水道の日にあわせ情報を提供する。					
処理場、管渠等の現場見学会を実施する。					
	実力	施率		卟	仁
	(k	o / .	a	計	計
	(%)))		(a)	(b)
	8	38.9		18	16

- 1.該当欄は、該当する項目に✓印をつけ、✓の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 4

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	荒川左岸北部流域下水道
事業の規模	6,262ha 330,270人	実施場所	桶川市外 4 市
計画期間	昭和46年~平成32年度	段 階	管理段階

事業の概要:

熊谷市、行田市、鴻巣市、桶川市及び北本市の公共下水道で集めた下水を荒川左岸北部流域下水道の管渠に受け入れ、桶川市に位置する元荒川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・ 高度処理、将来:高度処理)して元荒川に放流する事業である。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 元荒川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設を管理した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用を図るため汚泥処理施設を適切に管理した。
- ・ 当事務所のホームページで、県民に対して荒川左岸北部流域下水道事業の情報提供を行っている。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 高度処理水の綾瀬川の浄化用水への利用は住民からの臭気等に対する苦情のため中止している。

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記 入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項に ついて、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 荒川左岸北部流域下水道事業

\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	配期	慮	時	チェ	ック
基本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現 	計劃段階	11	管理段階	該当	実施
		段階			
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること					
別などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事慮する。					
項					
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。	ļ				
別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)	ļ			✓	
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装				✓	✓
項 等)					
甘木が町停車でつ					
基本的配慮事項 3 中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
	ļ				
が				•	
野 項					
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個 工事に使用する型枠を転用する。					
事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	ļ-·-·			✓	1
項 工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染	ļ-·-·				
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
建設発生土を公共工事間に流用する。					
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	ļ				
省エネルギー型の設備を導入する。	ļ			1	1
	·	·	1	'	L

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境			✓	✓
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。				
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄			✓	✓
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物				
	ができるだけリサイクルされるよう努める。				
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。			✓	✓
苴					
巫	本的配慮事項 5				
	本的配慮事項 5 下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。				
				√	√
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。 			√	✓
個	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。		 	<i>J</i>	√ √

			慮	時	チェ	ック
	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	圖	許	譶	該当	美施
		計画段階	施	管理段階		
		ra	П	г		
			蒑階			
基	本的配慮事項 1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				✓	✓
別	する。					
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	✓
項						
基	本的配慮事項 2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。				✓	✓
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。					
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	✓
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

其	本方向 3	配期	慮	時	チェ	ック
李 ·	県民等の自主的取組の促進	計劃段階	- 1 1	管理段階	該当	実施
			段階			
基	本的配慮事項1					
	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取約	狙の	推i	焦に	□配慮	する
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。				✓	✓
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。			j	✓	✓
事						
項						
基	本的配慮事項 2					
1	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	仮を	県	え 等	手に適	切に
提值	共するよう努める。					
個	パンフレットを作成する。				1	1
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。				1	✓
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨				1	✓
項	情報システム等)					
	下水道の日にあわせ情報を提供する。]	1	1
	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。				✓	✓
		実力	施率	₹	合	合
		(k) /	а	計	計
		(%)))		(a)	(b)
		g	0.5		21	19

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局

課・所・室名 荒川右岸下水道事務所

事業の種類	5 下水道の整備	事 業 名	荒川右岸流域下水道
事業の規模	約 18,724.5ha、1,448,450 人	実施場所	川越市外 9 市 3 町
計画期間	昭和46年度~平成31年度	段 階	計画段階

事業の概要:

県の中央西部地域の川越市外9市3町において、公共下水道事業で集められた下水を流域下水道の管渠に受け入れ、和光市と川越市にある終末処理場で処理し、処理水を一級河川新河岸川と不老川に放流する事業である。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 新河岸川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設(高度処理)を計画した。
- ・ 東京湾の水質環境基準(項目:COD、T-N、T-P)を達成するために、水処理施設(高度処理) を計画した。
- ・ 川越市の合流区域から終末処理場(川越)へ流入する遮集下水の汚濁負荷量を削減するため、合流改 善事業(雨水滞水池)を計画した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効利用を図るため、汚泥処理施設を計画した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入 する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業 実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。 なお総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記 入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について 記入する。

事業名 荒川右岸下水道事務所(計画段階)

	配	慮時	F	チェ	ック
基本方向 1	期				
環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ることなど				✓	✓
別により、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する。					
事					
項	<u> </u>				
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。	<u>.</u>			√	√
別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 	<u>.</u>			√	√
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等)			✓	✓
項 					
基本的配慮事項3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。	_				
個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 	. .				
別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事					
	<u> </u>				
基本的配慮事項 4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
	1				
個 工事に使用する型枠を転用する。 	- -				
	- -			√	
	. -			··-·	
	i				
しん、騒音・振動等の環境保全に努める。 					
建設発生土を公共工事間に流用する。	- -				
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	- -			√	
省エネルギー型の設備を導入する。 ※お笠の選字に当たっては、耐久性が真く、再姿源化しやすいもの、環境負荷	<u>.</u>			• 	
資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。					
	.L	Ll	اا	L	l

発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物ができる だけリサイクルされるよう努める。 汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。 基本的配慮事項5 下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。 汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等) 渇水時に処理水を活用する。 (西掲] 基本方向 2 恵み豊かでうるおいのある環境の確保 基本的配慮事項1 ビオトーブ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。 処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	I	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄物が					
汚泥焼却施設の廃熟を有効利用する。 ✓ ▼ ▼		発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物ができる					
汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。		だけリサイクルされるよう努める。	L				
下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。			[✓	✓
個 汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)	基	本的配慮事項 5					
別		下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。					
事 汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】	個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)					
基本方向 2	別	湯水時に処理水を活用する。	Ĭ				
基本方向 2 配慮時 財 設計 設計 設置 該 表施 財政 のでうるおいのある環境の確保 チェック 期 計画 設計 設置 該 表施 財政 の で を を を を を を を を を を を を を を を を を を	事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】	 			✓	✓
基本方向 2 期 財計 設計・施庫日間 該当 下施 上段階	項						
基本方向 2 期 財計 設計・施庫日間 該当 下施 上段階							
 基本的配慮事項1 ビオトーブ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。 処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。 処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 事項 基本的配慮事項2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 別理物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。 事 さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握 こ ・ ・ 			配	憲明	Ē	チェ	ック
恵み豊かでうるおいのある環境の確保 基本的配慮事項1 ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。 個 処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。	其	木 左 向 つ	期				
基本的配慮事項 1 ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。			計	設計	管理	該	実施
基本的配慮事項 1 ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。		恵み豊かでうるおいのある環境の確保	殿	施施	競	=	ЛE
基本的配慮事項1 ビオトーブ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。 個 処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 ・ イ 期 基本的配慮事項2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 個 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 ・ イ 別 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。 ・ さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握 ・ こ			PH		РН		
ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。 個 処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。 別 処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 ✓ ✓ 事 項 基本的配慮事項 2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 ✓ ✓ 個 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 ✓ ✓ 別 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。 事 さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握				階			
個 処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。 別 処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 ✓ ✓ ✓ 基本的配慮事項 2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。	基	本的配慮事項1					
別 処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 ✓ ✓ 基本的配慮事項 2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。		ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
事 項	個			_			-
項 基本的配慮事項 2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 個 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 ✓ ✓ 別 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。 □ 事 さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握	l''''		ļ			-	-
基本的配慮事項 2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 個 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 ✓ ✓ 別 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。						-	- 🗸
自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 個 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 ✓ ✓ 別 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。	別					- ✓	- ✓
個 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 ✓ ✓ ✓ 別 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。	別事					- ✓	- 🗸
建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。	別事項	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				- -	- ✓
事 さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握	別事項基	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 本的配慮事項 2				- 🗸	- 🗸
	別事項基	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 本的配慮事項 2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。				<u>-</u> ✓	- ✓
項 し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配慮する。	別事項基個	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 本的配慮事項2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。				- - -	- ✓
	別事項基個別	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。 本的配慮事項 2 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。				- ✓	- ✓

		配	慮時		チェ	ック
基	本方向 3	期				
	県民等の自主的取組の促進	計画	設計	管理	該当	実施
	宗氏寺の日土町牧組の促進	段階	設計・施門	段 階		
			工段階			
基			肾			
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	推進	単に酢	己慮	する	0
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
別						
事	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。			··-i		
項						
基	本的配慮事項 2					
į	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報を	月県	等に	這	切に	提供
d	るよう努める。					
個	パンフレットを作成する。 		<u> </u>			
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。 		<u> </u> -			
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨情報					
項	システム等) 		 -			
	下水道の日にあわせ情報を提供する。 		<u> </u> -			
	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。					
		実	施率		合	合計
		(b	/ a	(計	(b)
		%))		(a)	
			100		10	10

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局

課・所・室名 荒川右岸下水道事務所

事業の種類	5 下水道の整備	事 業 名	荒川右岸流域下水道
事業の規模	約 18,724.5ha、1,448,450 人	実施場所	川越市外9市3町
計画期間	昭和46年度~平成31年度	段 階	設計・施工段階

事業の概要:

県の中央西部地域の川越市外9市3町において、公共下水道事業で集められた下水を流域下水道の管渠に受け入れ、和光市と川越市にある終末処理場で処理し、処理水を一級河川新河岸川と不老川に放流する事業である。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を進めるとともに、環境対策型建設機械の使用に努めている。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用のため汚泥処理施設の改築・修繕工事等を施工した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業 実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。 なお総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記 入する。

総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入 する。

事業名 荒川右岸下水道事務所(設計・施工段階)

		配慮時			チェ	ック
基	本方向 1	期				
	環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基	本的配慮事項 1					
į	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ることなど				✓	✓
別	により、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する。					
事						
項						
基	本的配慮事項 2					
:	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。	•				
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。	<u></u>				
別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)	<u></u>			✓	✓
事	処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等)				✓	✓
項						
基	本的配慮事項3					
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 	ļ				
別	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事						
項						
基	本的配慮事項4					
	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 			1		
個	工事に使用する型枠を転用する。 	<u> </u>			✓	✓
別	工事に再生砕石を使用する。 	ļ			✓	✓
事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。	ļ			✓	✓
項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染、粉				✓	✓
	じん、騒音・振動等の環境保全に努める。 	<u> </u>		ļ		
	建設発生土を公共工事間に流用する。	<u> </u>		ļ	✓	✓
	アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	<u> </u>			✓	✓
	省エネルギー型の設備を導入する。 	<u> </u>			✓	✓
	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境負荷	L	L		✓	✓

	の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。					
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄物が					
	発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物ができる					
	だけリサイクルされるよう努める。					
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。					
基	— 本的配慮事項 5		•			
-	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。					
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)					
別		Ĭ				
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】	Ĭ			✓	✓
項						
			•			
		配	憲時	Ī	チェ	ック
其	本方向 2	期				
		計	設計	管理	該当	実施
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計画段階	施工	管理段階	П	ne.
		РН	""上"	РН		
			段階			
基	本的配慮事項1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。		1	1	·	
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。	<u> </u>	<u> </u>	<u></u>	-	-
別	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	✓

自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。

さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握

項し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配慮する。

処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。

建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。

事項

別

事

基本的配慮事項2

		配	慮時		チェ	ック
基	本方向 3	期				
	県民等の自主的取組の促進	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
=	ᆠᄊᆰᅸᇴᅑᅦ		階			
	本的配慮事項1 水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組の	推進		記慮	する	0
固	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
别	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。			[
事						
頃						
基	本的配慮事項 2					
	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報を	月県	等日	こ遁	切に	提供
す	るよう努める。		1		,	
固	パンフレットを作成する。		<u> </u>		✓	✓
别	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨情報					
頃	システム等)		ļļ			
	下水道の日にあわせ情報を提供する。					
	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。					
		実	施率		合	合計
		(b	/ a	(計	(b)
		%))		(a)	
			100		16	16

- 1.該当欄は、該当する項目に✓印をつけ、✓の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局

課・所・室名 荒川右岸下水道事務所

事業の種類	5 下水道の整備	事 業 名	荒川右岸流域下水道
事業の規模	約 18,724.5ha、1,448,450 人	実施場所	川越市外9市3町
計画期間	昭和46年度~平成31年度	段 階	管理段階

事業の概要:

県の中央西部地域の川越市外9市3町において、公共下水道事業で集められた下水を流域下水道の管渠に受け入れ、和光市と川越市にある終末処理場で処理し、処理水を一級河川新河岸川と不老川に放流する。 現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 高度処理水を不老川の浄化用水として利用し、河川の水質改善を図った。
- 事務所のホームページにより、県民に対して情報を提供している。
- ・ 下水道施設の見学会を実施し、県民に対して下水道の普及啓発を行っている。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用のため汚泥処理施設を適切に管理した。

今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 下水処理施設の覆蓋上部について公園として整備することとしている和光市に対し、引き続き事業促進に協力する。

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入 する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業 実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。 なお総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記 入する。

総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入する。

事業名 荒川右岸下水道事務所(管理段階)

	西口	憲時		チェ	w A
	期	忠时		, _	
基本方向 1		⋛	管	該	実
環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施	理段	該当	実施
	階	施工	幍		
		葮階			
基本的配慮事項 1		ra			
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ることなど					
別により、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する。					
事					
項					
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。		,			
個流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。					
別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)				✓	✓
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等)				✓	✓
項					
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個「さいたま新都心」に中水の供給を行う。				-	-
別処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。				-	-
事					
項					
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個工事に使用する型枠を転用する。					
別 工事に再生砕石を使用する。	<u></u>				
事処理水を処理場内の雑用水に利用する。	L			✓	✓
項 工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染、粉					
じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
建設発生土を公共工事間に流用する。					<u> </u>
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。					<u> </u>
省エネルギー型の設備を導入する。				✓	✓
資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境負荷				✓	✓

	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄物が				✓	✓
	発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物ができる					
	だけリサイクルされるよう努める。					
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。				✓	✓
基	本的配慮事項 5					
-	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。					
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)				✓	✓
別	渇水時に処理水を活用する。				✓	✓
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】				✓	✓
項						
		配息	憲時	÷	チェ	ック
基	本方向 2	期				
		計画	設計	管理	該当	実施
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計画段階	設計・施品	段階	·	
		. –	工段階			
<u> </u>	ᅶᄮᆩᄺᄬᇃ		階			
	本的配慮事項1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。	I				
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。 	ļ			- 	-
別	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	√
事						
項						
	本的配慮事項 2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。	ļ			✓	✓
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。	ļ				
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握				-	-
項	し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配慮する。					

		配加期	憲時	チェ	ック
			红色	主	宇
	県民等の自主的取組の促進	闄	野 壜	該当	実施
		計画段階	設計・施管理段階		
			段 階		
基2	本的配慮事項1				
7.	K環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組の	推進	に配り	憲する	0
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。			✓	✓
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。			✓	✓
事					
項					
基2	本的配慮事項 2				
Ę	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報を	月県	等にi	適切に	提供
する	るよう努める。				
個	パンフレットを作成する。			1	✓
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。			1	1
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨情報			1	1
項	システム等)				
	 下水道の日にあわせ情報を提供する。			1	✓
	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。			1	1
		実績	拖率	合	合計
		(b	/ a (計	(b)
		%)))	(a)	
			100	10	10

- 1.該当欄は、該当する項目に✓印をつけ、✓の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✓印をつけ、✓の合計数を記入(b)する。

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局

課・所・室名 中川下水道事務所

事業の種類	下水道の整備	事 業 名	中川流域下水道事業
事業の規模	約18,221.1ha 約1,304,180人	実施場所	越谷市ほか10市4町
計画期間	昭和47年 ~ 平成32年度	段 階	計画段階

事業の概要:

越谷市ほか10市4町の流域関連公共下水道で集めた汚水を中川流域下水道の管渠に受け入れ、三郷市に位置する中川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・高度処理、将来:高度処理)して中川に放流する事業である。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 中川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設(高度処理)を計画した。
- ・ 東京湾の水質環境基準(項目:COD、T-N、T-P)を達成するために、水処理施設(高度処理) を計画した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用のため汚泥処理施設を計画した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入する。

事業名 中川流域下水道事業

		配	慮時	期	チェ	ック
基本方	5向1 環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基本的	的配慮事項 1					
施設	设の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。	ı	ı			
個別事項	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ることなどにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する,				✓	1
	記慮事 項 2					
]な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。				√	1
個 別					✓	1
事 項	処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等)				✓	✓
	的配慮事項3 <道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
/	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
個別事項	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
基本的	的配慮事項 4					
資源	原やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 					
	工事に使用する型枠を転用する。 	ļ				– . –
	工事に再生砕石を使用する。 ·	ļ				
個	処理水を処理場内の雑用水に利用する。 	ļ			✓	✓
個 別 事 項[工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
埧		ļ				
		<u> </u>				
	省エネルギー型の設備を導入する。	<u> </u>	 		✓	1

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境負荷					
	の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。					
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄物が					
	発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物ができ					
	るだけリサイクルされるよう努める。					
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。				✓	✓
基	本的配慮事項 5					
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。					
/m	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)					
個別事	渇水時に処理水を活用する。					
事項	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】				✓	✓
		配	憲時	期	チェ	ック
基	本方向 2	計	設計	管	該当	実施
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	段	•	段	∄	肔
		階	上	階		
			段階			
基	本的配慮事項1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。				✓	/
個別					✓	1
事項						
炽						
基				-		
	个时间感要块工					
	中的 記憶手段を 自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
—					√	√
個別	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。				✓	✓
個別事項	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。				✓ ✓	✓ ✓
個別事項	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。 処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。 建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。				✓ ✓	<i>y</i>

基	本方向 3 県民等の自主的取組の促進	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施				
基本的配慮事項 1										
:	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組	の推進	[[記慮	する	0				
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。									
個別事	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。									
項										
基	本的配慮事項 2									
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。									
	パンフレットを作成する。									
	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。									
個別	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨情	報								
事項	システム等)									
炽	下水道の日にあわせ情報を提供する。									
	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。									
		実施	拖率		合計	合計				
		(b/	a (%))	(a)	(b)				
		1	00		12	12				

- 1 該当欄は、該当する項目に**✓**印をつけ、**✓**の合計数を記入(a)する。
- 2 実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価	5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局

課・所・室名 中川下水道事務所

事業の種類	下水道の整備	事 業 名	中川流域下水道事業
事業の規模	約18,221.1ha 約1,304,180人	実施場所	越谷市ほか10市4町
計画期間	昭和47年 ~ 平成32年度	段 階	設計・施工段階

事業の概要:

越谷市ほか 1 0 市 4 町の流域関連公共下水道で集めた汚水を中川流域下水道の管渠に受け入れ、三郷市に位置する中川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・高度処理、将来:高度処理)して中川に放流する事業である。

現在、流域下水道管渠や終末処理場等の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 周辺住民が自由に利用できる施設として、水処理施設上部に覆蓋の設置を行い、植裁等の環境整備を 進め都市公園とした。
- ・ 工事の施工にあたり、建設発生土の工事間流用や再生材の利用等に努めた。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入 する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入 する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業 実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。 なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず 記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項につい て、記入する。

事業名 中川流域下水道事業

	配	慮時	期	チェ	ック
基本方向1 環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ることなど				✓	1
個別により、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する。 事項	,				
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。		1	1		•
流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。	ļ!	L			
個別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等)				✓	✓
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等)				✓	✓
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
個別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事項				✓	✓
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
工事に使用する型枠を転用する。				✓	√
工事に再生砕石を使用する。				✓	✓
処理水を処理場内の雑用水に利用する。				✓	✓
工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染、粉				✓	✓
個 別 じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
事 建設発生土を公共工事間に流用する。				✓	✓
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。				✓	✓
省エネルギー型の設備を導入する。				1	1
資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境負荷	[[✓	1
の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。		<u> </u>			

	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄物が 発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物ができ					
	るだけリサイクルされるよう努める。					
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。					
基	基本的配慮事項 5					
-	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。					
Į	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)					
個別	渇水時に処理水を活用する。					
個別事項	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】				✓	✓

		配	慮時	期	チェ	ック					
基	本方向 2 恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計画段階	設計·施工段階	管理段階	該当	実施					
基	基本的配慮事項 1										
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。										
/m	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。				✓	1					
個別事項	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	√					
基	本的配慮事項 2										
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。										
/E	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。				✓	✓					
個別事項	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。]	✓	✓					
事項	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握				✓	1					
	し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配慮する。										

					チェック				
基	基本方向3 県民等の自主的取組の促進				該当	実施			
基本的配慮事項 1									
;	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組	の推進	[[]	記慮	する	o			
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。								
別事項	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。								
項									
基	基本的配慮事項 2								
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。								
	パンフレットを作成する。				✓	1			
Ì	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。								
個別	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨情	報							
個別事項	システム等)								
炽	下水道の日にあわせ情報を提供する。								
!		実力	拖率		合計	合計			
(b					(a)	(b)			
		1	00	•	19	19			

- 1 該当欄は、該当する項目に**✓**印をつけ、**✓**の合計数を記入(a)する。
- 2 実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価	5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局

課・所・室名 中川下水道事務所

事業の種類	下水道の整備	事 業 名	中川流域下水道事業
事業の規模	約18,221.1ha 約1,304,180人	実施場所	越谷市ほか10市4町
計画期間	昭和47年 ~ 平成32年度	段 階	管理段階

事業の概要:

越谷市ほか10市4町の流域関連公共下水道で集めた汚水を中川流域下水道の管渠に受け入れ、三郷市に位置する中川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・高度処理、将来:高度処理)して中川に放流する事業である。

現在、流域下水道管渠や終末処理場の施設の改築・修繕及び増設を行っている。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 水処理施設上部の覆蓋に対して、周辺住民が自由に利用できる施設としての活用を進めた。
- ・ 中川水循環センター内でイベント等を開催し、県民に対して下水道の普及啓発を行った
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用のため、汚泥処理施設を適切に管理した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入 する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入 する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業 実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。 なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず 記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項につい て、記入する。

事業名 中川流域下水道事業

	配	慮時	期	チェ	ック
基本方向1 環境への負荷の少ない地域社会の実現		設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ることなど					
個別により、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する。 事項					
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。	ļ	L			
個別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等)	ļ			✓	✓
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等)				✓	✓
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
「さいたま新都心」に中水の供給を行う。				-	
個別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事項				✓	1
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
工事に使用する型枠を転用する。					
工事に再生砕石を使用する。					
処理水を処理場内の雑用水に利用する。				✓	✓
工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染、粉					
個 別 じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
事 建設発生土を公共工事間に流用する。					
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。					
省エネルギー型の設備を導入する。				✓	1
資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境負荷		[✓	1
の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。		<u> </u>			l

	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄物が 発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物ができ るだけリサイクルされるよう努める。			✓	1
				 √	1
基	基本的配慮事項 5				
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。				
/m	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)			✓	✓
個別	渇水時に処理水を活用する。			✓	✓
個別事項	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】			✓	✓

		配原	憲時	期	チェ	ック	
基	基本方向 2 恵み豊かでうるおいのある環境の確保			管理段階	該当	実施	
基	本的配慮事項 1						
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。						
/ =	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備する。	<u> </u>	<u> </u>		✓	✓	
個別事項	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	✓	
事項							
基本的配慮事項 2							
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。						
/m	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。	<u> </u>			✓	✓	
個別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。	<u> </u>					
個別事項	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を把握		-		✓	1	
垬	し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配慮する。						

Ī					期	チェック			
基	基本方向 3 県民等の自主的取組の促進				管理段階	該当	実施		
基本的配慮事項 1									
:	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組	の推	進	に	记慮	する	0		
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					\	✓		
別事項	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。					✓	✓		
項									
基	基本的配慮事項 2								
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。								
	パンフレットを作成する。					✓	1		
	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					✓	✓		
個別	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨情	報				✓	1		
個別事項	システム等)								
~~	下水道の日にあわせ情報を提供する。					1	✓		
	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。					1	✓		
		3	尾旅	逐率		合計	合計		
	(b))	(a)	(b)		
			10	nn		22	22		

- 1 該当欄は、該当する項目に**✓**印をつけ、**✓**の合計数を記入(a)する。
- 2 実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価	5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	古利根川流域下水道
事業の規模	2,367.8ha 116,370 人	実施場所	久喜市、加須市
計画期間	昭和52年~平成32年度	段 階	計画段階

事業の概要:

久喜市及び加須市の公共下水道で集めた下水を古利根川流域下水道の管渠に受け入れ、久喜市に位置する古利根川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・高度処理、将来:高度処理) して大落古利根川に放流する事業である。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 大落古利根川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設(高度処理)を計画した。
- ・ 東京湾の水質環境基準(項目:COD、T-N、T-P)を達成するために、水処理施設(高度 処理)を計画した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用のため、汚泥処理施設を計画した。
- ・ 処理場内に動植物(ホタル舎)の生息空間を計画した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 特になし

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について 記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず 記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、 事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記 入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、 必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事 項について、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 古利根川流域下水道事業

	配期	慮	時	チェ	ック
基本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現		設計	篇	該当	実施
	計劃段階	計	管理段階	当	肔
	白		户白		
		段階			
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。	ı				Ι.
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				√	/
別 などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事慮する。					
項 					
基本的配慮事項 2	<u> </u>				
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。				1	1
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装				√	1
項等)					
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。	<u> </u>				
別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事					
項					
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。				1	
個 工事に使用する型枠を転用する。	<u> </u>				
別 工事に再生砕石を使用する。	<u> </u>				<u></u>
事処理水を処理場内の雑用水に利用する。	<u> </u>			✓	✓
項 工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染	-				
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。	<u> </u>	<u> </u>			<u> </u>
建設発生土を公共工事間に流用する。	<u> </u>	<u>[</u>			<u> </u>
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	<u> </u>	<u> </u>			<u> </u>
省エネルギー型の設備を導入する。	<u> </u>	<u>[</u>		✓	✓

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境		 	
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。			
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄			
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物			
	ができるだけリサイクルされるよう努める。			
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。		 ✓	1
基	本的配慮事項 5			
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。			
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)			
別	渇水時に処理水を活用する。			
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】		✓	1
項				

_		_				
		配	慮	時	チェ	ック
基	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	蕌	設計	篇	該当	実施
		計劃段階	社	管理段階	_	טנו
		면	ITI	면		
			段階			
基	本的配慮事項 1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				/	1
別	する。					
事			1-		✓	✓
項						
基	本的配慮事項 2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個					/	
別別					<u></u>	
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	✓
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

-		配期	慮	時	チェ	ック
基 。	本方向 3 県民等の自主的取組の促進		設	鶑	該当	実施
•		計劃段階	い い を	戡	当	施
		陷		削		
			葮階			
基2	本的配慮事項 1					
7	K環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取紀	且の	推论	焦に	記慮	する
0						
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。					
事						
項						
基	本的配慮事項 2					
Ę	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情 報	最を	県目	民等	手に適	切に
提信	供するよう努める。					
個	パンフレットを作成する。					
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨					
項	情報システム等)					
ĺ	下水道の日にあわせ情報を提供する。					
•		実	拖率	₹	合	合
		(k) /	а	計	計
		(%)))		(a)	(b)
		С	വ വ		11	10

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	古利根川流域下水道
事業の規模	2,367.8ha 116,370 人	実施場所	久喜市、加須市
計画期間	昭和52年~平成32年度	段 階	設計・施工段階

事業の概要:

久喜市及び加須市の公共下水道で集めた下水を古利根川流域下水道の管渠に受け入れ、久喜市に位置する古利根川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・高度処理、将来:高度処理) して大落古利根川に放流する事業である。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- 大落古利根川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設を施工した。
- ・ 東京湾の水質環境基準(項目:COD、T-N、T-P)を達成するために、水処理施設(高度処理)を計画し、一部完成した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用のため、汚泥処理施設を施工した。
- ・ 処理場内に動植物(ホタル舎)の生息空間を施工した。
- ・ 再生材料を使用し施工した。
- ・ 環境配慮型建設機械を使用して施工した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 周辺地域の環境改善を図り、かつ多目的に広く利用できる施設とするために、水処理施設の上部 に二重覆蓋を整備したが利用には至っていない。また、植栽等による環境整備にも至っていない。

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 古利根川流域下水道事業

		= ¬	-	n+	_	
▮	大文章 1	即期	僡	丏	チェ	ツク
	本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	美 施
基	本的配慮事項1					
	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				✓	✓
別	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事	慮する。					
項						
基	本的配慮事項 2					
	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。					
別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)				-	-
事			1		✓	1
項	等)					
基	本的配慮事項3					
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
別	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。		1		-	-
事						
項						
基	本的配慮事項4					
	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個	工事に使用する型枠を転用する。				✓	✓
別	工事に再生砕石を使用する。		<u> </u>	[✓	✓
事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。				✓	✓
項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染		 		✓	✓
	、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
	建設発生土を公共工事間に流用する。				✓	✓
	アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。				✓	✓
	省エネルギー型の設備を導入する。		<u> </u>		✓	✓
		-	_	-	-	_

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境]			✓	✓	
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。	<u></u>					
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄						
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物						
	ができるだけリサイクルされるよう努める。						
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。						
	基本的配慮事項 5						
基	本的配慮事項 5						
	本的配慮事項 5 下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。						
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。						
個	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。	 			<i>\</i>	√	

基本方向 2	期	慮 時	チェ	ック
芯の豆がしりるのり	Ⅰのある環境の確保 ┃蕌┃	設置	該当	実施
	[€0]	設計·施 管理段階		,,,
	l re	11		
		裒 階		
基本的配慮事項 1				
ビオトープ創造に配慮	した敷地内の緑化を推進する。			
個 処理場内にせせ	らぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備		1	1
別する。				
事 処理場内で在来植	i生に配慮した植栽を考慮する。	{	1	1
項				
基本的配慮事項 2				
	の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。			
個 処理施設の上部を	覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。		1	
	と調和したデザイン、配色を行う。	{	1	<u>/</u>
			{·	·
	「一タブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を		1	√
┃項┃把握し、ビオトープ創	造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配			
慮する。				

	配期	慮時	チェ	ック
基本方向 3 		設置	該当	実施
	計劃段階	設計・施置理段階		פות
		_ 段階		
基本的配慮事項 1				•
水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取締	組の	推進Ⅰ	こ配慮	する
図 親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。	<u> </u>			
引 環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。				
頁				
事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	収を	県民	等に適	切に
是供するよう努める。				
固 パンフレットを作成する。			1	1
広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。				
事 インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨				
貝 情報システム等)				
下水道の日にあわせ情報を提供する。			1	
処理場、管渠等の現場見学会を実施する。			1	
	実	施率	合	合
	(k	o / a	計	計
	(%))	(a)	(b)
	_	0/1	17	16

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 4

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	古利根川流域下水道
事業の規模	2,367.8ha 116,370人	実施場所	久喜市、加須市
計画期間	昭和52年~平成32年度	段 階	管理段階

事業の概要:

久喜市及び加須市の公共下水道で集めた下水を古利根川流域下水道の管渠に受け入れ、久喜市に位置する古利根川水循環センターで汚水を再生(現在:標準活性汚泥法・高度処理、将来:高度処理) して大落古利根川に放流する事業である。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- 大落古利根川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設を管理した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用のため汚泥処理施設を適切に管理した。
- ・ 例年7月下旬に(財)下水道公社と共催で下水道フェアを行い、県民に対して下水道事業の普及 啓発をしている。
- ・ 当事務所のホームページで、県民に対して古利根川流域下水道事業の情報提供を行っている

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 特になし

1. 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず 記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、 事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記 入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、 必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事 項について、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 古利根川流域下水道事業

	配期	慮	時	チェ	ック
基本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現 	計劃段階		管理段階	該当	施施
		葮階			
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること					
別などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事慮する。					
項					
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。	_				I
個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。 	 	ļ			
別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)	 	ļ		-	-
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装				✓	✓
[項]等)					
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個「さいたま新都心」に中水の供給を行う。				-	
別処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。				✓	
事					
項					
基本的配慮事項 4			•		
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個 工事に使用する型枠を転用する。					
別工事に再生砕石を使用する。					
事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。				✓	√
項 工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染					
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
建設発生土を公共工事間に流用する。					
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	 	<u> </u>			
省エネルギー型の設備を導入する。				✓	1

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境		✓	1
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。			
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄		✓	1
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物			
	ができるだけリサイクルされるよう努める。			
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。	1	 ✓	1
基	本的配慮事項 5			
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。			
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)		✓	1
別	渇水時に処理水を活用する。			
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】		✓	1
項				

,._,_.....

_		_				
		配	慮	時	チェ	ック
基	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	蕌	設計	篇	該当	実施
		計劃段階	社	管理段階	_	טנו
		면	ITI	면		
			段階			
基	本的配慮事項 1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				/	1
別	する。					
事			1-		✓	1
項						
基	本的配慮事項 2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個					/	
別別					<u></u>	
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	✓
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

其	本方向 3	配期	慮	時	チェ	ック						
*	県民等の自主的取組の促進	計劃段階		管理段階	該当	実施						
			段階									
基	本的配慮事項1											
水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組の推進に配慮する。												
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。				1	✓						
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。				✓	✓						
事												
項												
基本的配慮事項 2												
	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	収を	県	天 等	計に適	切に						
提值	共するよう努める。 											
個	パンフレットを作成する。 	<u> </u>	<u> </u>		✓	✓						
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。				1	✓						
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨				✓	✓						
項	情報システム等)											
	下水道の日にあわせ情報を提供する。				1	1						
ĺ	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。				✓	1						
		実力	施率	<u> </u>	合	合						
		(k) /	а	計	計						
		(%)))		(a)	(b)						
		ć	90.0	,	20	18						

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	荒川上流流域下水道
事業の規模	775ha 16,020 人	実施場所	深谷市、寄居町
計画期間	昭和61年~平成32年度	段 階	計画段階

事業の概要:

深谷市及び寄居町の公共下水道で集めた汚水を荒川上流流域下水道の管渠に受け入れ、深谷市に位置する荒川上流水循環センターで汚水を再生して荒川に放流する事業である。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 荒川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設(高度処理)を計画した。
- ・ 東京湾の水質環境基準(項目:COD、T-N、T-P)を達成するために、水処理施設(高度 処理)を計画した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 特になし

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記 入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項に ついて、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 荒川上流流域下水道事業

おお方向 1 現境への負荷の少ない地域社会の実現				_		_	
環境への負荷の少ない地域社会の実現	 	太主白 1		慮	時	チェ	ック
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。 個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること 別 などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する。			計画段階	•	管理段階	該当	実施
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。 個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること 別 などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する。	基	本的配慮事項1					
別 などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配慮する。 基本的配慮事項2 適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。 個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等) 事 小水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事 項 基本的配慮事項4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に使用する型枠を転用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。							
事 慮する。 頂 基本的配慮事項 2 適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。 個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。	個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				1	1
理 基本的配慮事項 2 適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。 個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装 等) 基本的配慮事項 3 中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 基本的配慮事項 4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に使用する型枠を転用する。 男 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	別	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
 基本的配慮事項 2 適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。 個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装質等) 基本的配慮事項 3 中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事 項 基本的配慮事項 4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 即 処理水を処理場内の雑用水に利用する。 ✓ ✓ 	事	慮する。					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。 個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。 別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等) 基本的配慮事項3 中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事 項 基本的配慮事項4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 低 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 別 工事に再生砕石を使用する。	項						
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。 個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。 別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等) 基本的配慮事項3 中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事 項 基本的配慮事項4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 低 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 別 工事に再生砕石を使用する。							
個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。 別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等) 事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装等) 基本的配慮事項3 中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事 項 基本的配慮事項4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 四 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。	基	本的配慮事項 2					
別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)	:	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装 (個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。				/	1
項 等) 基本的配慮事項3 中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事項 基本的配慮事項4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)					
基本的配慮事項3 中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事項 基本的配慮事項4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	事					✓	1
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事項 基本的配慮事項 4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	項	等)					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。 個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事項 基本的配慮事項 4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。							
個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。 別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。 事 項 基本的配慮事項 4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	基	本的配慮事項3		<u> </u>			
別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。	ı	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
事 項	個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
項 基本的配慮事項 4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 工事に使用する型枠を転用する。 周 工事に再生砕石を使用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	別	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
基本的配慮事項 4 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	事						
 資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 個 工事に使用する型枠を転用する。 別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。 ✓ ✓	項						
個 工事に使用する型枠を転用する。 □ 別 工事に再生砕石を使用する。 □ 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。 ✓	基	本的配慮事項4			•		
別 工事に再生砕石を使用する。 事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。		資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	個	工事に使用する型枠を転用する。					
	別	工事に再生砕石を使用する。	_ _	_			
項 工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染	事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。				✓	✓
	項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染					
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。		、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
建設発生土を公共工事間に流用する。		建設発生土を公共工事間に流用する。]			
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。		アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。		<u> </u>]		
省エネルギー型の設備を導入する。		省エネルギー型の設備を導入する。				✓	✓

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境				
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。	<u> </u>			
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄				
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物				
	ができるだけリサイクルされるよう努める。				
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。				
基本的配慮事項 5					
基	本的配慮事項 5				
	本的配慮事項 5 下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。				
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。				
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。	\		 	
個	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。 汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等) 渇水時に処理水を活用する。	ļ		 	

		配	慮	時	チェ	ック
基	本方向 2	期		~~		
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計劃段階	許	宣理段階	該当	実施
		隧	施	隧		
			髭			
<u></u>	上사회·목록·조ィ		陷			
奉	本的配慮事項 1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備					
別	する。					
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	✓
項						
基本的配慮事項 2						
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。					
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	✓
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

1		配期	慮!	時	チェ	ック		
奉	本方向 3 県民等の自主的取組の促進		設	管	該	実		
	宗氏寺の日土的収組の促進	計画段階	許	管理段階	藝	実施		
		嶐	い い か に を に を に を に り に り に り に り に り に り に り	幍				
			段階					
			階					
基	本的配慮事項1							
	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取約	组の	推道	崖に	配慮	する		
0								
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。							
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。							
事								
項								
基	基本的配慮事項 2							
	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	仮を	県目	天 等	まに適	i切に		
提	供するよう努める。							
個	パンフレットを作成する。							
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。							
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨							
項	情報システム等)							
	下水道の日にあわせ情報を提供する。							
		実力	拖率	:	合	合		
		(k) /	а	計	計		
		(%))		(a)	(b)		
		, ,	,,		``'	(==)		
		1	00.0	$\overline{}$	7	7		

- : 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	荒川上流流域下水道
事業の規模	775ha 16,020人	実施場所	深谷市、寄居町
計画期間	昭和61年~平成32年度	段 階	設計・施工段階

事業の概要:

深谷市及び寄居町の公共下水道で集めた汚水を荒川上流流域下水道の管渠に受け入れ、深谷市に位置する荒川上流水循環センターで汚水を再生して荒川に放流する事業である。

総合評価	5
------	---

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 荒川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設を施工した。
- ・ 再生材料を使用し施工した。
- ・ 環境配慮型建設機械を使用して施工した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 特になし

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記 入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項に ついて、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

事業名 荒川上流流域下水道事業

		=7	-=	n+	_	
▮	本方向 1	即期	僡	時	チェ	ツク
	本方向 T 環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	美 施
基	本的配慮事項1					
	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				✓	✓
別	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事	慮する。					
項						
基	本的配慮事項 2					
	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。					
別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)					
事					✓	1
項	等)					
基	本的配慮事項3		<u> </u>			
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
別	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事						
項						
基	本的配慮事項4					
,	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個	工事に使用する型枠を転用する。				✓	✓
別	工事に再生砕石を使用する。		 	[✓	✓
事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。				✓	✓
項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染		 		✓	✓
	、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
	建設発生土を公共工事間に流用する。			_	✓	✓
	アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。		<u> </u>		✓	✓
	省エネルギー型の設備を導入する。				✓	✓
		_	_	-	-	_

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境			 ✓	✓
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。				
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄				
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物				
	ができるだけリサイクルされるよう努める。				
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。				
基本的配慮事項 5					
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。				
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)				
別	渇水時に処理水を活用する。				
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】				

_						
		配	慮	時	チェ	ック
基	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	蕌	設計	篇	該当	美施
		計画段階	÷/c	管理段階	7	ne.
		咱		ᅝ		
			段階			
基	本的配慮事項1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備					
別	する。					
事			- 		✓	1
項						
基	本的配慮事項 2					
	・					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。					
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を		 -			
_					•	•
 	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

		配期	慮	時	チェ	ック		
基	本方向 3 県民等の自主的取組の促進		[公]	笞	該	宔		
	宗氏寺の日土的収組の促進	闦	許	툁	該	実施		
		計劃段階	施	駩階				
			・施工段階					
		,	階					
基	本的配慮事項 1							
:	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組	組の	推i	焦に	配慮	する		
0								
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。							
別								
事								
項								
基	基本的配慮事項 2							
	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	仮を	県[え 等	テに適	切に		
提	供するよう努める。							
個	パンフレットを作成する。				✓	✓		
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。							
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨							
項	情報システム等)							
	下水道の日にあわせ情報を提供する。							
	 処理場、管渠等の現場見学会を実施する。							
		実	施率	<u> </u>	合	合		
		(k	o /	а	計	計		
		(%))		(a)	(b)		
		1	00.0	0	13	13		

- : 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

環境配慮推進状況評価表(事業別)

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	荒川上流流域下水道
事業の規模	775ha 16,020 人	実施場所	深谷市、寄居町
計画期間	昭和61年~平成32年度	段 階	管理段階

事業の概要:

深谷市及び寄居町の公共下水道で集めた汚水を荒川上流流域下水道の管渠に受け入れ、深谷市に位置する荒川上流水循環センターで汚水を再生して荒川に放流する事業である。

総合評価	5
------	---

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- 市野川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設を管理した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効活用のため、汚泥処理施設を適切に管理した。
- ホームページで、県民に対して荒川上流流域下水道事業の情報提供を行っている。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

・ 特になし

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、配慮が欠けることとなった理由等について、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、今後の事業にあたっての配慮すべき事項について、記入する。

別表 - 1 5 下水道の整備に関する環境配慮方針

荒川上流流域下水道事業

事業名

基	本方向 1	配期	慮	時	チェ	ック
	環境への負荷の少ない地域社会の実現	計劃段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実 施
_	_ 4.55 = = = ,		階			
	本的配慮事項 1					
	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。	_				
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること					
	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配 					
_	慮する。					
項						
基	本的配慮事項 2					
	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					T
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。					<u> </u>
別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)					<u> </u>
事	処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装				1	1
項	等)					
基	本的配慮事項3					
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
別			·			
事						
項						
基			<u> </u>			
	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個	工事に使用する型枠を転用する。					
別		 ∤				}
事					√	1
_ 項						
	、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。					
						ļ
	 	[.]				}
	, ハノノルール、コノノノ I MV市共加して囚る。	J	L	Il	l	L

	省エネルギー型の設備を導入する。				✓	✓
	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境				1	1
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。					
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄				1	✓
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物					
	ができるだけリサイクルされるよう努める。					
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。					
基本的配慮事項 5						
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。					
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)				✓	✓
別	渇水時に処理水を活用する。					
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】			-		
項						

		ボコ		±	チェ	<i>I</i>
			思『	寸	7 I	ツン
基	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計劃段階	設計	学里没 皆	該当	実施
		曧		支	_	טנו
		陷	Ш	省		
			段階			
基	本的配慮事項 1	<u> </u>	, г. н. ј			
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備					
別	する。					
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	✓
項						
基	本的配慮事項 2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。					
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を	ļ		f	✓	✓
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

		配期	慮	時	チェ	ック
基		_	重件	容	主	宔
	県民等の自主的取組の促進	計劃段階	許· を	富理段階	藝	実施
		了。	施	薩		
			工段階			
			階			
	本的配慮事項 1					
7	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取約	狙の)推i	進に	:配慮	する
0			1			
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。]]		1	✓
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。				1	✓
事						
項						
基:	本的配慮事項2					
Į	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	収を	:県	民争	手に適	切に
提	供するよう努める。					
個	パンフレットを作成する。				✓	✓
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。				1	✓
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨				✓	✓
項	情報システム等)					
	下水道の日にあわせ情報を提供する。				1	✓
					1	✓
•		実	施率	<u>z</u>	合	合
		(k	o /	а	計	計
		(%	.))		(a)	(b)
					, ,	, ,
		1	00.	0	15	15

- : 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

【評価基準】

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

なお、総合評価が2以下の事業にあっては、様式第1号の「配慮できなかった事項及び理由、 又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄に、配慮が欠けることとなった理由等につい て、必ず記入する。総合評価が3以上の事業についても、同欄に、今後の事業にあたっての配 慮すべき事項について、記入する。

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	市野川流域下水道
事業の規模	1,137.2ha 34,990 人	実施場所	滑川町外 2 町
計画期間	昭和63年~平成32年度	段 階	計画段階

事業の概要:

滑川町、嵐山町、小川町の公共下水道で集めた汚水を市野川流域下水道の管渠に受け入れ、滑川町に位置する市野川水循環センターで汚水を再生して市野川に放流する事業である。

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 市野川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設(高度処理)を計画し た。
- ・ 東京湾の水質環境基準(項目:COD、T-N、T-P)を達成するために、水処理施設(高 度処理)を計画した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記 入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

事業名 市野川流域下水道事業

	配期	慮	時	チェ	ック
基本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現 	計画段階	設計・ 施	管理段階	該当	美 施
	PH	严 段階	РН		
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				✓	1
別などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事慮する。					
項					
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。				/	/
					l
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装				✓	1
項等)					
基本的配慮事項 3	<u> </u>				
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事					
項					
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個 工事に使用する型枠を転用する。	<u></u> .				
別 工事に再生砕石を使用する。	<u></u> .				
事処理水を処理場内の雑用水に利用する。	<u></u>	<u> </u>]	✓	✓
項 工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染					
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。		 			_
建設発生土を公共工事間に流用する。	<u></u>	<u> </u>			
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。		<u> </u>			
省エネルギー型の設備を導入する。	<u> </u>	<u> </u>		✓	✓

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境	l					
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。	<u></u>					
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄						
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物						
	ができるだけリサイクルされるよう努める。						
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。						
	基本的配慮事項 5						
基	本的配慮事項 5						
	本的配慮事項 5 下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。						
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。						
個	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。						

		配	慮	時	チェ	ック			
基	本方向 2	期							
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計画	設計	管理	該当	実施			
		計劃段階	· 施	管理段階					
			上段階						
			階						
基	基本的配慮事項 1								
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。								
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				✓	✓			
別	する。								
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	✓			
項									
基	本的配慮事項2								
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。								
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。								
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。								
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓				
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配								
	慮する。								

	配期	慮時	チェ	ック
基本方向 3 - 県民等の自主的取組の促進		設置	該	実施
	計劃段階	設計・施置理段階		他
	РВ	『 野階	'	
		幍		
基本的配慮事項1				
水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組	且の	推進	に配慮	!する
固 親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。			<u> </u>	
引 環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。]			
				
頁	ı			
事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	日を	県民	等に適	動切に
是供するよう努める。				
固 パンフレットを作成する。				
」 広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。	1			
事 インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨				
頁 情報システム等)	ı			
下水道の日にあわせ情報を提供する。				
処理場、管渠等の現場見学会を実施する。				
	実施	施率	合	合
	(k) / a	計	計
	(%)		(a)	(b)
	, · · · · ·	,		
	ç	27.5	R	7

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 4

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	市野川流域下水道
事業の規模	1,137.2ha 34,990人	実施場所	滑川町外 2 町
計画期間	昭和63年~平成32年度	段 階	設計・施工段階

事業の概要:

滑川町、嵐山町、小川町の公共下水道で集めた汚水を市野川流域下水道の管渠に受け入れ、滑川町に位置する市野川水循環センターで汚水を再生して市野川に放流する事業である。

総合評価	4
------	---

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- 工事にあたり、省エネルギー型の水処理方式を採用して設計施工した。
- ・ 再生材料を使用し施工した。
- ・ 環境配慮型建設機械を使用して施工した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

事業名 市野川流域下水道事業

	配	慮	時	チェ	ック
基本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現					
	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				✓	✓
別などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事慮する。					
項					
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。	<u> </u>				
別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)	<u> </u>				
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装				✓	✓
項等)					
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個「さいたま新都心」に中水の供給を行う。	<u> </u>				
別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事					
項					
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。		,			
個工事に使用する型枠を転用する。	<u> </u>	<u> </u>		✓	1
別 工事に再生砕石を使用する。	<u> </u>	<u> </u>		✓	✓
事処理水を処理場内の雑用水に利用する。	<u> </u>			✓	✓
項 工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染				✓	✓
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。	<u> </u>	<u> </u>			
建設発生土を公共工事間に流用する。	<u> </u>	<u>[</u>]	✓	✓
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	<u>.</u>	<u> </u>		✓	✓
省エネルギー型の設備を導入する。	<u> </u>	<u> </u>		✓	✓

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境]			1	✓	
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。						
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄						
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物						
	ができるだけリサイクルされるよう努める。						
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。						
	基本的配慮事項 5						
基	本的配慮事項 5						
	本的配慮事項 5 下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。	ı					
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。						
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。						
個	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。						

			慮	時	チェ	ック
	本方向 2	期	ЕЛΙ	22	=7-	
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	圖	許	螶	該当	美 施
		計画段階	施	管理段階		
			H	г		
			段階			
基	本的配慮事項1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				✓	
別	する。					
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	✓
項						
基	本的配慮事項 2			-		
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。				✓	✓
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

-		配期	慮!	時	チェ	ック
基	本方向 3 県民等の自主的取組の促進		設	管	該	実
	未代寺の日上的敬語の促進	計劃段階	許 ・施	理段	瞽	実施
		얨		얨		
			段階			
基	本的配慮事項 1					
7	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取約	組の	推道	焦に	配慮	する
0						
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。	ļ				
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。					
事						
項						
基	本的配慮事項 2					
Ę	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	収を	県目	えき	まに適	切に
提信	共するよう努める。					
個	パンフレットを作成する。				✓	1
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨					
項	情報システム等)					
•						
•	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。					
		実	施率	<u> </u>	合	合
) /		計	計
		(%		-	(a)	(b)
		(70	"		(u)	(1)
		_	26.7		15	12
		. >	n /		12	

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 4

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	市野川流域下水道
事業の規模	1,137.2ha 34,990 人	実施場所	滑川町外 2 町
計画期間	昭和63年~平成32年度	段 階	管理段階

事業の概要:

滑川町、嵐山町、小川町の公共下水道で集めた汚水を市野川流域下水道の管渠に受け入れ、滑川町に位置する市野川水循環センターで汚水を再生して市野川に放流する事業である。

総合評価	5
------	---

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 市野川の水質環境基準(項目:BOD)を達成するために、水処理施設を管理した。
- ・ 廃棄物の減容化と資源の有効利用のために、汚泥処理施設を適切に管理した。
- ・ ホームページで、県民に対して荒川上流流域下水道事業の情報提供を行っている。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記 入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

事業名 市野川流域下水道事業

 基本方向 1	配期	慮	時	チェ	ック
環境への負荷の少ない地域社会の実現	計劃段階	設計	管理段階	該当	実施
	牋階	施	牋		
		長階			
基本的配慮事項 1					
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること					
別などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事 慮する。					
項					
基本的配慮事項 2					
■ 適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。					
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗装				√	√
項等)					
基本的配慮事項 3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。	ļ	 			
別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事					
項					
基本的配慮事項4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。					
個		 			
別 工事に再生砕石を使用する。 	<u> </u>	 			ļ <u>.</u>
事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。 項 丁事の施丁に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染	<u> </u>	 		✓	
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。 		 			 .
建設発生土を公共工事間に流用する。	<u></u> -	 			
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。	-	 			<u>.</u>
省エネルギー型の設備を導入する。 	J	L]	<u> </u>	L <u>'</u>

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境			 ✓	✓
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。	<u> </u>			
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄			✓	1
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物				
	ができるだけリサイクルされるよう努める。				
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。				
基	本的配慮事項 5		<u> </u>		
	本的配慮事項 5 下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。				
				√	√
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。			 √	√
個	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。			 √	✓

		配	慮	時	チェ	ック
基	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計劃段階	辭	管理段階	該当	実施
		牋階	施	牋階		
			上段階			
			階			
基	本的配慮事項 1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				✓	✓
別	する。					
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	1
項						
基	本的配慮事項 2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。					
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	✓
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

基	本方向 3	配期	慮	時	チェ	ック
_	県民等の自主的取組の促進	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	実施
基	本的配慮事項 1					
	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組	且の	推道	焦に	配慮	する
固	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。				✓	✓
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。				✓	✓
事 項						
基	本的配慮事項 2					
į	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	報を	県	天 等	テに適	切に
提	供するよう努める。					
個	パンフレットを作成する。				✓	/
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。				✓	✓
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨				✓	1
項	情報システム等)					
	下水道の日にあわせ情報を提供する。				✓	1
	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。				✓	✓
		実績	施率	3	巾	合
		(k) /	а	計	計
		(%)))		(a)	(b)
		1	00.0	0	16	16

- 1.該当欄は、該当する項目に✓印をつけ、✓の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	利根川右岸流域下水道
事業の規模	1,770ha 57,950 人	実施場所	本庄市外 3 町
計画期間	平成16年~平成32年度	段 階	計画段階

事業の概要:

本庄市、美里町、神川町及び上里町の公共下水道で集めた汚水を利根川右岸流域下水道の管渠に受け入れ、本庄市に位置する小山川水循環センターで汚水を再生して女堀川に放流する事業である。

小山川水循環センターは、平成20年度まで本庄市水質管理センターとして本庄市単独で管理していたが、平成21年度から流域下水道として埼玉県で管理している。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

幹線管渠や処理場施設の工事において、資源やエネルギー消費を減らす工夫を行っている。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

事業名 利根川右岸流域下水道事業

					チェ	ック
	基本方向 1 環境への負荷の少ない地域社会の実現 環境への負荷の少ない地域社会の実現 関係					実施
基	本的配慮事項 1					
	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				✓	1
別	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配					
事	慮する。					
項						
_	本的配慮事項 2					
	本的配慮争項2 適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。				/	1
別						
事	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				✓	
	等)				•	
	- /					
基						
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。					
別	処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事						
項						
基	本的配慮事項4					
	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。 	ı				
個	工事に使用する型枠を転用する。 		 			
別	工事に再生砕石を使用する。 	<u> </u>	 			
事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。 	<u> </u>	<u> </u>		✓	✓
項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染					
	、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。 		 			
	建設発生土を公共工事間に流用する。 	<u></u>	 			ļ
	アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。 	<u> </u>	 			
	省エネルギー型の設備を導入する。	<u> </u>			✓	√

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境	<u> </u>		
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。			
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄			
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物			
	ができるだけリサイクルされるよう努める。	<u> </u>		
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。			
基	本的配慮事項 5			
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。			
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)			
別	渇水時に処理水を活用する。			
		1		
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】			

			慮	時	チェ	ック
基	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計画段階	設計・施工段	管理段階	該当	実 施
			얨			
基	本的配慮事項 1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				✓	✓
別	する。					
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。]		✓	✓
項						
基	本的配慮事項 2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。					
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	✓
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

	配	慮問	チ	- エ 、	ック
基本方向 3	期				
県民等の自主的取組の促進	証	設計·施		该当	実施
	段階	施原	公		
		工段階			
		얨			
基本的配慮事項1					
水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取組	組の	推進	に酉	己慮	する
個 親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
別 環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。			1		
事					
項					
 基本的配慮事項 2				•	
事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	仮を	県民	等に	這適	切に
提供するよう努める。					
個 パンフレットを作成する。					
別 広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					
事 インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨					
項 情報システム等)					
下水道の日にあわせ情報を提供する。			1		
処理場、管渠等の現場見学会を実施する。			-i		
	実	施率	合	ì	合
	(k) / a			計
	(%		(a		(b)
	(,,	,,	,,,,		\- <i>/</i>
	1	00.0	+.	0	0

- : 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	利根川右岸流域下水道
事業の規模	1,770ha 57,950人	実施場所	本庄市外 3 町
計画期間	平成16年~平成32年度	段 階	設計・施工段階

事業の概要:

本庄市、美里町、神川町及び上里町の公共下水道で集めた汚水を利根川右岸流域下水道の管渠に受け入れ、本庄市に位置する小山川水循環センターで汚水を再生して女堀川に放流する事業である。

小山川水循環センターは、平成20年度まで本庄市水質管理センターとして本庄市単独で管理していたが、平成21年度から流域下水道として埼玉県で管理している。

総合評価 5

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- · 幹線管渠や処理場施設の工事において、資源やエネルギー消費を減らす工夫を行っている。
- ・ 再生材料を使用し施工した。
- ・ 環境配慮型建設機械を使用して施工した。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

事業名 利根川右岸流域下水道事業

		= ¬	-	n+	_					
l ₩	本方向 1	即期	僡	丏	チェ	ツク				
	4万回 I 環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	設計・施工段階	管理段階	該当	美 施				
基本的配慮事項 1										
	施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。									
個	国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図ること				✓	✓				
別	などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう配									
事	慮する。									
項										
基										
	適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。									
個	流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。									
別	高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)									
事			1		✓	1				
項	等)									
基	本的配慮事項3									
	中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。									
個	「さいたま新都心」に中水の供給を行う。									
別			1							
事										
項										
基										
,	資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。									
個	工事に使用する型枠を転用する。				✓	✓				
別	工事に再生砕石を使用する。		<u> </u>	[✓	✓				
事	処理水を処理場内の雑用水に利用する。				✓					
項	工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚染		 		✓	✓				
	、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。									
	建設発生土を公共工事間に流用する。				✓	✓				
	アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。				✓	✓				
	省エネルギー型の設備を導入する。		<u> </u>		✓	✓				
		-	_	-	-	_				

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境		 ✓	✓
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。			
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄			
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物			
	ができるだけリサイクルされるよう努める。			
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。			
基	本的配慮事項 5			
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。			
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)			
別	渇水時に処理水を活用する。			
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】			

		配	慮し	時	チェ	ック
 基	本方向 2	期				
	まみ豊かでうるおいのある環境の確保	蕌	設計	管理	該当	美 施
		計劃段階	施	管理段階	_	שנו
		阳		면		
			段階			
基本	本的配慮事項 1					
Ł	ごオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				✓	1
別	する。					
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。	i		i	✓	1
項						
基本	本的配慮事項 2	<u> </u>	1			
É	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。	[·	<u> </u>	j		
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を		- 	 	✓	1
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

		配期	慮	時	チェ	ック
基	本方向 3 県民等の自主的取組の促進		責⊕	笞	該	軍
	宗氏寺の日土町取組の促進	計劃段階	許	摽	≌	実施
		嶐	施	嶐		
			設計・施工段階			
			階			
基	本的配慮事項1	<u> </u>				
7	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取紙	且の	推道	崖に	記慮	する
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。					
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。]		
事						
項		<u> </u>				
基	本的配慮事項 2					
1	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	根を	県	⋜等	手に適	切に
提任	洪するよう努める。				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
個	パンフレットを作成する。	<u> </u>		[1	1
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。					
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨]		
項	情報システム等)	<u> </u>				
	下水道の日にあわせ情報を提供する。					
ľ	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。	ļ		<u>[</u>		
		実	施率	<u> </u>	合	合
		(k) /	a		計
		(%		_	(a)	(b)
		(70	"		(α)	(6)
		H,		\dashv	1.4	1.0
		١ ز	92.9	, ,	14	13

- 1.該当欄は、該当する項目に✔印をつけ、✔の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 5

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

4:実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

┆1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。

部局名 下水道局 課・所・室名 荒川左岸北部下水道事務所

事業の種類	下水道	事 業 名	利根川右岸流域下水道
事業の規模	1,770ha 57,950 人	実施場所	本庄市外 3 町
計画期間	平成16年~平成32年度	段 階	管理段階

事業の概要:

本庄市、美里町、神川町及び上里町の公共下水道で集めた汚水を利根川右岸流域下水道の管渠に受け入れ、本庄市に位置する小山川水循環センターで汚水を再生して女堀川に放流する事業である。

小山川水循環センターは、平成20年度まで本庄市水質管理センターとして本庄市単独で管理していたが、平成21年度から流域下水道として埼玉県で管理している。

総合評価 4

【記入方法】

評価基準に基づき評価を行った総合評価を記入する。

特に配慮した事項

- ・ 当事務所のホームページ及び関連市町の広報等により、県民に対して利根川右岸流域下水道事業 の情報提供を行っている。
- ・ 幹線管渠や処理場施設の工事において、資源やエネルギー消費を減らす工夫を行っている。
- ・ 下水道フェア等を開催し、県民に対して下水道の普及啓発を行った。

配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項

1 . 「特に配慮した事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮した事項とその内容について記入する。

なお、総合評価が4以上の事業にあっては、その評価に値する措置の内容について、必ず記入する。

2. 「配慮できなかった事項及び理由、又は今後の事業にあたっての配慮すべき事項」欄は、事業実施に当たって、特に配慮できなかった事項及びその理由や配慮すべき事項について記入する。

事業名 利根川右岸流域下水道事業

			時	チェ	ック
	期		答	章	F
環境への負荷の少ない地域社会の実現	計画段階	計	管理段階	蕟当	美施
	階	施	쭪		
		上段階			
基本的配慮事項 1		門百			
施設の立地に当たっては、周辺の土地利用との整合を図る。					
個 国土利用計画や都市計画などの土地利用関連諸計画との整合を図るこの	_				
別などにより、周辺地域の自然や景観さらには安全性を損なうことのないよう	己				
事慮する。					
項					
基本的配慮事項 2					
適切な河川流量の確保など、地域の水循環の保全に配慮する。					
個 流域別下水道整備総合計画に基づく整備を行う。					
別 高度処理水を河川の浄化用水に利用する。(不老川、綾瀬川等)				-	-
事 処理場・ポンプ場で雨水浸透施設を整備する。(雨水浸透桝、透水性舗	₹			✓	1
項等)					
基本的配慮事項3					
中水道やせせらぎなどの修景用水として下水処理水の再利用に努める。					
個 「さいたま新都心」に中水の供給を行う。		<u></u>			
別 処理場内のせせらぎ水路や池などに高度処理水を利用する。					
事					
項					
基本的配慮事項 4					
資源やエネルギーの消費の少ない下水道施設の導入に努める。		ı			THE STATE OF THE S
個工事に使用する型枠を転用する。	<u>. </u>	ļ			<u> </u>
別 工事に再生砕石を使用する。	<u>. </u>	<u></u>			<u> </u>
事 処理水を処理場内の雑用水に利用する。	<u> </u>			✓	1
項 工事の施工に当たって、環境対策型建設機械を選定するなどし、大気汚刻	社				
、粉じん、騒音・振動等の環境保全に努める。		<u></u>			<u> </u>
建設発生土を公共工事間に流用する。	<u> </u>	<u></u>	<u> </u>	<u></u>	<u> </u>
アスファルト殻、コンクリート殻の再資源化を図る。			<u> </u>		
省エネルギー型の設備を導入する。				✓	✓
·					

	資材等の選定に当たっては、耐久性が高く、再資源化しやすいもの、環境		 	✓	✓
	負荷の少ないもの、再生品などを優先的に使用するよう努める。	<u> </u>			
	日頃適切な補修管理に努めるとともに、改築工事時には、大量の解体廃棄			✓	1
	物が発生するので、原則として分別解体を条件として発注し、発生した廃棄物				
	ができるだけリサイクルされるよう努める。				
	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。				
基	本的配慮事項 5				
	下水道資源の再利用や下水道における未利用エネルギーの有効利用に努める。				
個	汚泥を資源として再利用する。(セメント原料、骨材等)			✓	✓
別	渇水時に処理水を活用する。				
事	汚泥焼却施設の廃熱を有効利用する。【再掲】				
_					

		配	慮	時	チェ	ック
基	本方向 2	期				
	恵み豊かでうるおいのある環境の確保	計劃段階	許	管理段階	該当	実施
		隧	施	隧		
			上段階			
_			陷			
基	本的配慮事項 1					
	ビオトープ創造に配慮した敷地内の緑化を推進する。					
個	処理場内にせせらぎ水路や池などの水生動植物のための水辺空間を整備				✓	
別	する。					
事	処理場内で在来植生に配慮した植栽を考慮する。				✓	✓
項						
基	本的配慮事項 2					
	自然的要素の多い空間の創造に努めるとともに、周辺景観との調和を図る。					
個	処理施設の上部を覆蓋し、植栽等による環境整備を促進する。					
別	建物は周辺の景観と調和したデザイン、配色を行う。					
事	さいたまレッドデータブック等に基づき希少野生生物の生息・生育状況を				✓	✓
項	把握し、ビオトープ創造などにより希少野生生物の生息・生育空間の確保に配					
	慮する。					

#	★÷点 3	配期	慮	時	チェ	ック					
埜	本方向 3 県民等の自主的取組の促進		設計・施工段階	管理段階	該当	実 施					
基	基本的配慮事項 1										
	水環境の保全についての学習機会の場としての活用を図り、県民等の自主的取紙	且の	推道	焦に	配慮	する					
個	親子下水道教室、下水道フェア等を開催する。	<u> </u>	<u>. </u>		✓	✓					
別	環境保全ポスター、作文、標語など普及啓発作品を募集する。				✓	1					
事											
項											
基	本的配慮事項 2										
į	事業の内容やそれに係る環境の状況、環境の保全と創造に関する施策などの情報	収を	県目	え 等	計に適	切に					
提	供するよう努める。	T									
個		<u> </u>	,		✓	✓					
別	広報紙、新聞、放送などのマスメディアにより情報を提供する。	 	, <u> </u>		✓						
事	インターネットなどにより情報を提供する。(下水道ホームページ、降雨				✓	✓					
項	情報システム等)	<u> </u>				 					
	下水道の日にあわせ情報を提供する。		<u> </u>		✓	1					
	処理場、管渠等の現場見学会を実施する。				✓	✓					
		実施	拖率	合	合						
		(b) /	а	計	計					
		(%)))		(a)	(b)					
		8	37.5		16	14					

- 1.該当欄は、該当する項目に✓印をつけ、✓の合計数を記入(a)する。
- 2.実施欄は、実施した(実施を決定した)事項に✔印をつけ、✔の合計数を記入(b)する。

総合評価 4

5:実施率が90%以上で、かつ、技術・社会動向からみて最大限の措置を講じている。

:4 :実施率が80%以上で、かつ、基準5には及ばないが一定レベルの措置を講じている。

3:実施率が、70%以上である。

2:実施率が、50%以上70%未満である。

1:実施率が、50%未満である。

総合評価が4以上の事業にあっては、様式第1号の「特に配慮した事項」欄に、その評価に 値する措置の内容について、必ず記入する。